

史跡 齋宮跡

平成23年度現状変更緊急発掘調査報告

平成25(2013)年3月

明 和 町

序

平成23年度から町の活性化を図るために策定に取り組んできました「歴史まちづくり法」に基づく『明和町歴史的風致維持向上計画』が、このたび、昨年6月6日に国土交通省、文部科学省、農林水産省から認定を受けました。これは、全国で34番目、中部地区では6番目、三重県では亀山市に次いで2番目に認定されました。

事業期間は平成32年度までの9年間とし、主要幹線道路からの誘導案内板の設置や来訪者が快適に史跡内を回遊できる散策道の整備、多目的広場や便益施設整備など16項目のハード事業と6項目のソフト事業について国の支援を得ながら実施が可能となりました。

また、三重県が進めています史跡東部整備事業は、造成や幅15mの区画道路などの基盤整備工事が終わり、復元建物の実施設計も完成し、いよいよ平成25年度から建設工事が開始される運びとなりました。

これらの事業を進めることは、歴史文化の保存活用を住民への理解と次世代への文化の継承を進めると共に町内外への情報発信、町全域を捉えた地域活性化につなげていかなければならないと考えています。

本報告書は、史跡地内で個人住宅等の建設などに伴い発掘調査が必要であった10件の結果についてまとめたもので、発掘調査にご理解とご協力いただきました地元地権者の皆さま、また、発掘調査から報告書作成に至るまでご協力いただいた齋宮歴史博物館調査研究課の方々に対してここに厚くお礼申し上げます。

平成25（2013）年3月

三重県多気郡明和町
町長 中井 幸充

例 言

- 1 本書は、平成23（2011）年度に明和町が実施した史跡斎宮跡（三重県多気郡明和町斎宮・竹川地区）の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。
- 2 本書に掲載した調査は、国庫および県費の補助金を受けて実施したものである。
- 3 調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館および明和町斎宮跡課が現地調査を担当した。
- 4 第174-8・11次調査については、別途報告書を刊行する。
- 5 調査区名の表示方法（例：6AL13）については、『史跡斎宮跡平成13年度発掘調査要報』（斎宮歴史博物館 2003）による。
- 6 遺構の平面図は、過年度との整合をはかるため、「測地成果2000」以前の旧国土座標第VI系に相当する座標系を用いて表示している。
- 7 遺構の時期区分については、『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』（2001）を基準とした。
- 8 遺構名冒頭の略記号は、遺構の形態から以下のように表記している。
SA：柱列・塀 SB：掘立柱建物 SD：溝 SE：井戸 SF：道路
SK：土坑 SH：竪穴住居 SZ：落ち込み等 SX：墓・不明遺構
- 9 図面・写真等の調査資料類および出土遺物は、斎宮歴史博物館で一括保管している。
- 10 本書の執筆は、新名強（斎宮歴史博物館調査研究課）が前言・調査報告を、中野敦夫（明和町斎宮跡・文化観光課）が付録の執筆を行い、編集は新名・中野が担当した。

目 次

I 前言	1
II 調査報告	
1 第174-1次調査	2
2 第174-2次調査	3
3 第174-3次調査	4
4 第174-4次調査	5
5 第174-5次調査	6
6 第174-6次調査	7
7 第174-7次調査	7
8 第174-9次調査	8
9 第174-10次調査	9
10 第174-12次調査	10
11 第174-13次調査	11
付編 史跡現状変更等許可申請	13

表・挿 図 目 次

〔表〕

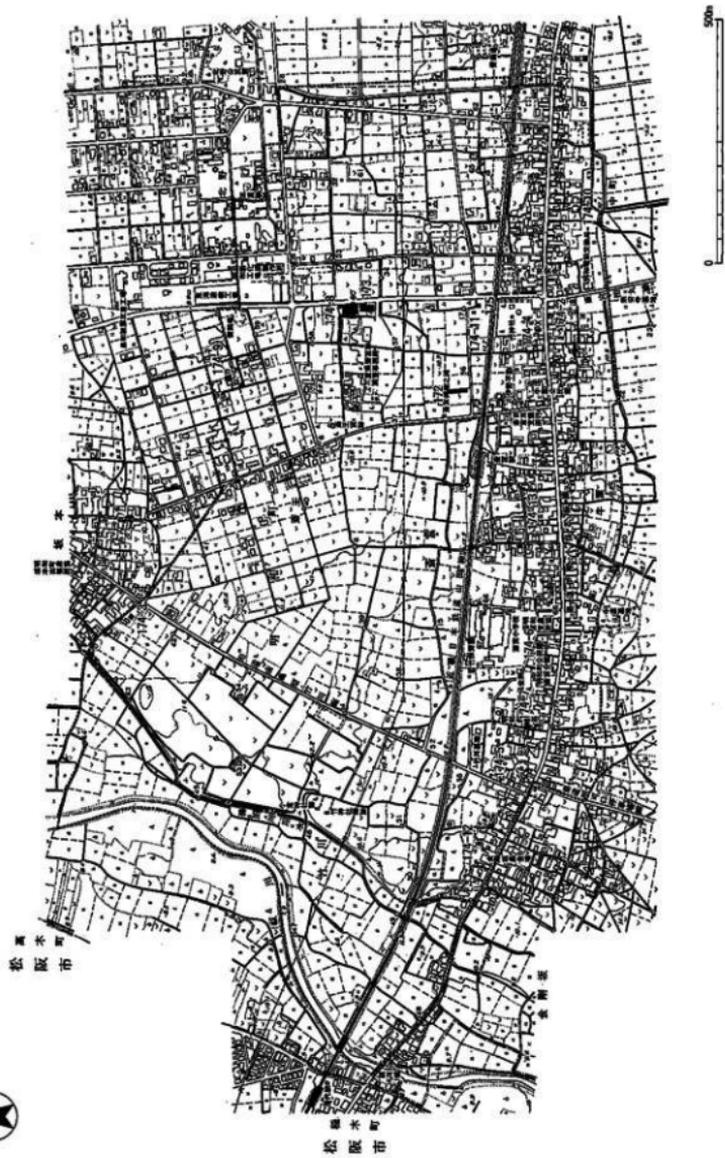
1 史跡現状変更等許可申請の推移	3 第174次調査 出土遺物観察表
2 第174次調査 遺構一覧表	4 平成23年度史跡現状変更等許可申請一覧表

〔図〕

1 発掘調査地位置図	14 第174-6次調査 調査区位置図
2 第174-1次調査 調査区位置図	15 第174-6次調査 遺構平面図・断面図
3 第174-1次調査 遺構平面図・断面図	16 第174-7次調査 調査区位置図
4 第174-2次調査 調査区位置図	17 第174-7次調査 遺構平面図・断面図
5 第174-2次調査 遺構平面図・断面図・遺物実測図	18 第174-9次調査 調査区位置図
6 第174-3次調査 調査区位置図	19 第174-9次調査 遺構平面図
7 第174-3次調査 遺構平面図・断面図	20 第174-9次調査 断面図
8 第174-3次調査 遺物実測図	21 第174-10次調査 調査区位置図
9 第174-4次調査 調査区位置図	22 第174-10次調査 遺構平面図・断面図
10 第174-4次調査 遺構平面図・断面図	23 第174-12次調査 調査区位置図
11 第174-4次調査 遺物実測図	24 第174-12次調査 遺構平面図・断面図・遺物実測図
12 第174-5次調査 調査区位置図	25 第174-13次調査 調査区位置図
13 第174-5次調査 遺構平面図・断面図	26 第174-13次調査 遺構平面図・断面図

写 真 図 版

写真図版1 第174-1次調査	写真図版5 上：第174-7次調査 下：174-9次調査
写真図版2 上：第174-2次調査 下：174-3次調査	写真図版6 第174-10次調査
写真図版3 第174-4次調査	写真図版7 第174-12次調査
写真図版4 上：第174-5次調査 下：174-6次調査	



第1图 免掘調査地区位置图 (1:10,000)

I 前 言

史跡斎宮跡では、平成23年度に43件の現状変更等許可申請が提出された。史跡指定後、年間約40～50件程度で推移してきており、今年度も同様の傾向が窺える。

内訳をみると、史跡内住民による個人住宅の新築や改築および撤去、合併浄化槽の設置、三重県による史跡公園整備、明和町による多目的広場整備などがある。このうち、発掘調査が必要となった案件は13件であった。

このうち、明和町の多目的広場整備に先立つ実態説明調査については、町単費により第174-8次調査として828㎡の調査を行った。また、三重県の史跡斎宮跡東部整備事業に伴う調査では、第174-11次調査として4.8㎡のトレンチ調査を行った。これらは23年度に実施した現状変更に伴う発掘調査面積全体(1,070.7㎡)の78%にあたる。

第174-2・3・5～7・9～13次調査は個人住宅の新築・増築・合併浄化槽設置に伴う調査を、第174-4次調査は竹神社境内整備に伴う調査を行った。

平成23年度の史跡現状変更に伴う調査では、遺構密度や遺構面の高さの確認など史跡保護に係る貴重なデータの蓄積がなされ、斎宮跡の実態説明にとって重要な成果であった。(新名 強)

年 度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積(㎡)	うち補助金調査件数	同調査面積(㎡)
昭和 54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,520	7	1,131
平成 元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	5	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	39	5	832	2	452
10	28	4	882	2	396
11	37	8	816	3	186
12	42	10	512	8	469
13	38	14	439	5	409
14	39	22	760	4	304
15	44	19	1,558	8	1,124
16	43	24	2,372	7	762
17	31	14	3,002	8	338
18	31	13	2,171	8	335
19	50	12	374	11	270
20	41	6	237	5	150
21	56	5	790	3	45
22	65	13	448.2	13	448.2
23	43	13	1,070.7	10	223.8
計	1,472	371	64,264.9	227	24,502.0

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移

II 調査報告

1 第174-1次調査 (6AV12・R12)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字笛川2358-4、
2345-5

原因 鉄柱撤去および設置

調査期間 平成23年4月11～14日、
同年11月4・5日

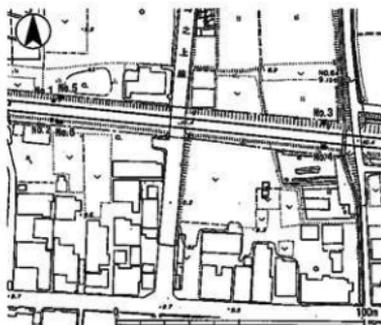
調査面積 14.1m²

調査概要

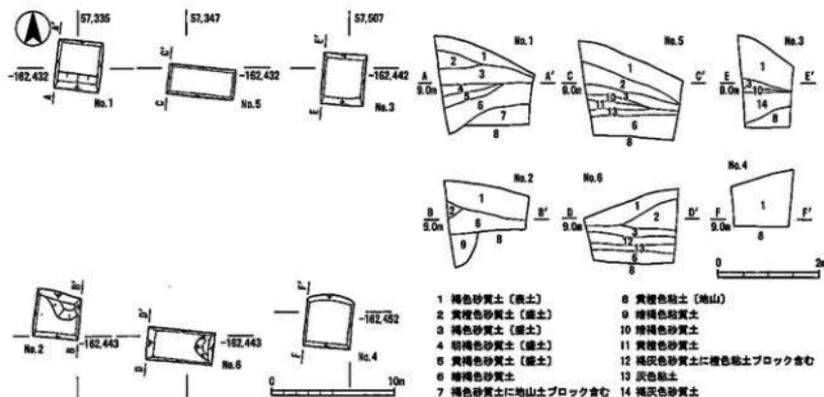
調査地は史跡東部、竹神社東約400mに位置する鉄道敷線路地内で、鉄塔の撤去および新設に伴い、鉄塔基礎部分6ヶ所の発掘調査を行った。

現地は鉄道路線盛土部分の傾斜地で、現地表面は標高9.0m～10.0mにあたる。基本層序は盛土・暗褐色砂質土・黄色粘土(地山)で、部分的に暗褐色土上に褐色砂質土(旧耕土)および灰色粘土(床土)が残る。トレンチNo.1では、標高8.12mで土坑を、トレンチNo.2では標高8.78mで落ち込みを確認したが、遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明であった。また、他のトレンチでは遺構を確認することはできなかった。

鉄道路線内では、多くの部分で路線建設等の攪乱を受けているものと考えられるが、今回の調査結果や、同じく路線内で行われた第170-5次調査(平成22年度)で土坑を確認していることから、場所によっては路線下においても遺構が存在していることが確認された。



第2図 第174-1次調査区位置図 (1:2,000)



第3図 第174-1次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

2 第174-2次調査 (6AR13)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮牛葉574-1

原因 住宅の撤去及び新築

調査期間 平成23年5月13日

調査面積 5.6㎡

調査概要

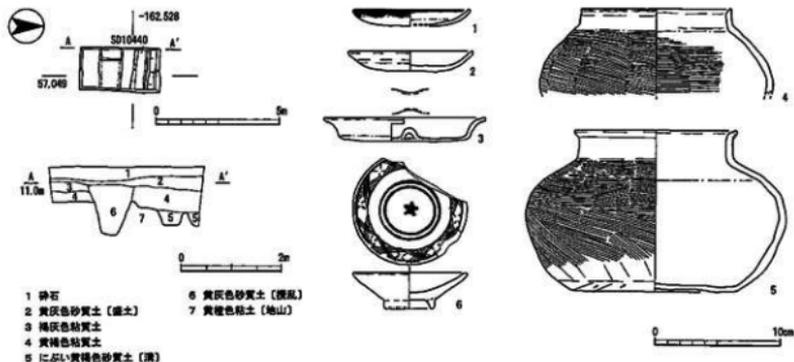
調査地は史跡南部、竹神社南約50mに位置する宅地で、斎宮の方格地割では、鈴池西區面に位置する。個人住宅の合併浄化槽設置に、発掘調査を実施した。なお、住宅改築に伴う事前調査として第170-12次調査(平成22年度)が行われ、溝やピットなどを確認している。

基本層序は盛土・褐色砂質土・黄褐色砂質土・黄褐色粘土(地山)で、遺構は現地表面下0.7m(標高10.5m)の地山層上面で検出を行った。調査区の中央部は現代の攪乱を受けているものの、調査区の北半部で溝SD10440と落ち込みを確認した。SD10440からは近世の土師器および陶磁器が出土した。1は土師器皿で口縁部端部に煤が付着しており、灯明皿と考えられる。2は陶器皿で、内面には重ね焼きの痕跡が残る。3は土師器茶釜の蓋で、内面中央につまみが付く。4・5は土師器茶釜。ともに体部外面はハケ調整が行われる。5の内面下半には煤が付着する。6は磁器の小皿で内面には染め付けが施され、見込み中央にコンニャク印判が見られる。

今回確認した溝や落ち込みは埋土も同じであることから、近世後期に属するものと考えられる。



第4図 第174-2次調査区位置図 (1:2,000)



- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 砕石 | 6 黄灰色砂質土 (標高) |
| 2 黄灰色砂質土 (盛土) | 7 黄褐色粘土 (地山) |
| 3 褐色粘質土 | |
| 4 黄褐色粘質土 | |
| 5 にがい黄褐色砂質土 (溝) | |

第5図 第174-2次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)・遺物実測図 (1:4)

3 第174-3次調査 (6AK4・L4)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字古里592

原因 住宅新築

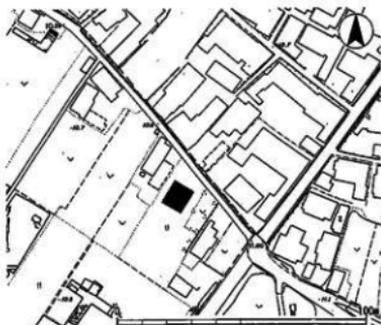
調査期間 平成23年5月16・17日、同年8月9日

調査面積 53.3㎡

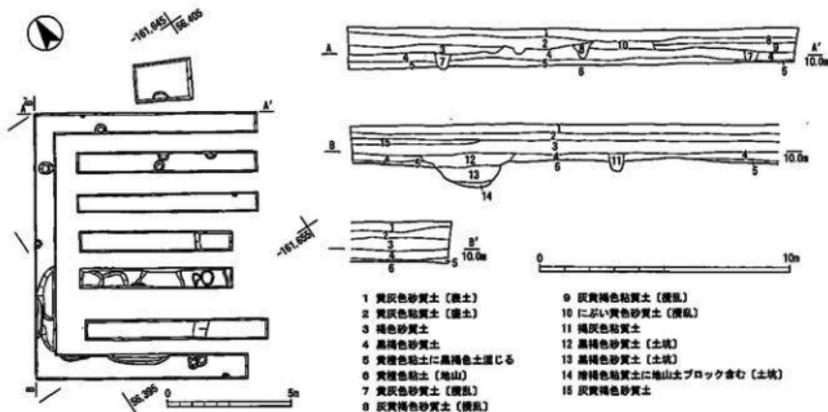
調査概要

調査地は史跡北西部、斎宮歴史博物館の北東約200mに位置する畑地で、個人住宅の新築に伴い、耐震対策のための鋼管杭設置部分および合併浄化槽設置部分について発掘調査を実施した。

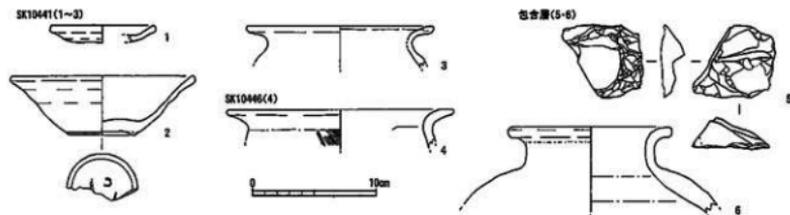
基本層序は、盛土・褐色砂質土・黒褐色土(黒ボク)・黄褐色粘土(地山)である。遺構面は現地表面下0.5~0.6m(標高10.0~9.9m)の黒ボク層上面であるが、遺構の判別が困難であったため、現地表下0.7~0.8m(標高9.7~9.8m)の地山層上面で遺構の検出を行い、土坑やピットを確認した。土坑は調査区南半部で土坑を集中して確認したが、調査区の制約上、遺構の全容を明らかにすることはできなかった。



第6図 第174-3次調査区位置図 (1:2,000)



第7図 第174-3次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)



第8図 第174-3次調査 遺物実測図 (1:4)

ピットはいずれも小規模なもので、掘立柱建物になるものは確認できなかった。

出土遺物は土坑や包含層から土師器や山茶碗、灰釉陶器壺などが出土している。1～3はSK10441から出土したもの。1は陶器山皿。2は陶器山茶碗で底部に墨書が見られるが、判読は不明である。藤澤良祐氏の山茶碗編年の第6型式⁽¹⁾に属するものと考えられる。3は土師器壺で口縁端部は内側に折り返される。4はSK10446から出土したもので、土師器壺。5・6は包含層から出土したもの。5はチャート質の分割礫。人為的に分割した痕跡は確認出来るものの、剥片を採取した形跡は見られない。縄文時代のものであるうか。6は灰釉陶器の壺で、外面には灰が厚く付着する。

今回の調査では、史跡北西部において鎌倉時代前期の遺構が確認されたほか、分割礫の存在から周辺に縄文時代の遺構が存在する可能性も考えられよう。

4 第174-4次調査 (6AR12)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字牛葉

2757、2575-1、-2

原因 神社境内整備

調査期間 平成23年5月18～25日

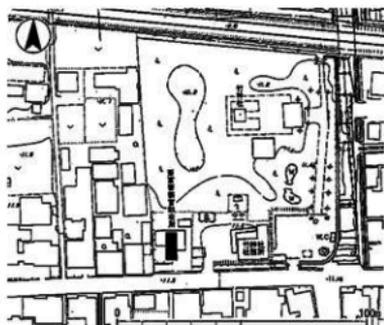
調査面積 44㎡

調査概要

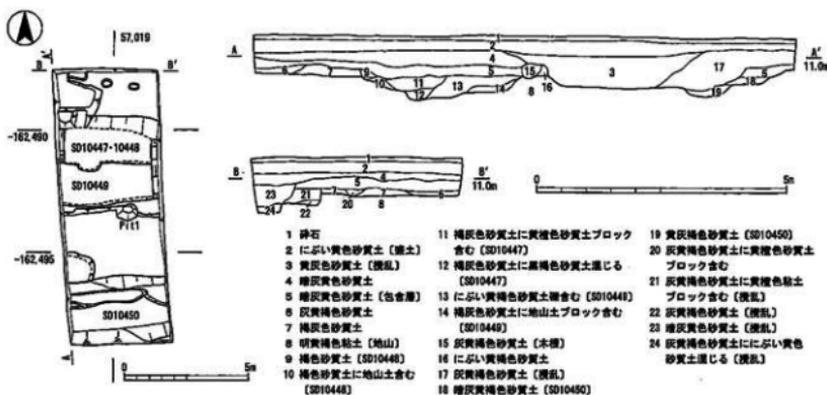
調査地は史跡東部の竹神社境内に位置する。境内の施設整備に伴い、地下遺構を確認するために発掘調査を実施した。

調査地は、斎宮の方格地割という牛葉東区画の南西部にあたる。牛葉東区画と東に隣接する鍛冶山西区画は、平安時代初期において区画の内側を囲む柵列跡が確認されており、斎王の居所である「内院」に推定されている部分である。

遺構は現地表面下0.6～0.8m(標高10.6～10.8m)の黄褐色粘土層上面で確認した。調査区南半部は攪乱を受けていたものの、溝4条およびピットを確認した。SD10447～10449は東西方向の重複する溝。

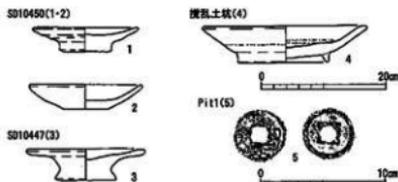


第9図 第174-4次調査区位置図 (1:2000)



第10図 第174-4次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

重複関係からSD10447が最も新しく、幅1.3m・深さ0.5mを測る。ロクロ土師器皿(3)が出土しており、斎宮の土器編年⁽¹²⁾のⅢ-3期に属する。SD10448・10449も埋土の状況から、SD10447に近い時期のものと考えられる。SD10450は調査区南端で確認された東西方向の溝で、幅2.5m・深さ0.4mを測る。埋土から土師器小皿(1)やロクロ土師器皿(2)が出土しており、Ⅲ-3期に属するものである。このほか、調査区中央部のPit1からは寛永通寶(5)が出土している。



第11図 第174-4次調査遺物実測図
(1~4は1:4、5は1:2)

平安時代後期には内院の機能が牛葉東区画に集約されると考えられており、これまでの調査で区画内をさらに細分する区画溝が確認されている。今回確認された溝群は、牛葉東区画内を細分する溝にあたるものと考えられ、平安時代後期の内院の実態を考える上で、重要な成果と言えよう。

5 第174-5次調査 (6AH12)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字東裏357-5

原因 住宅建替

調査期間 平成23年5月23日

調査面積 4.4m²

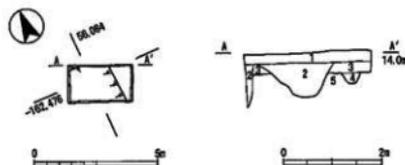
調査概要

調査地は史跡南西部、斎宮小学校の西約300mに位置する宅地で、個人住宅の改築に伴い、合併浄化槽設置部分について、発掘調査を実施した。

基本層は盛土・褐色砂質土・橙色粘土(地山)で、現地表面下0.4m(標高13.6m)で地山層上面を確認した。調査区の大半は擾乱を受けており、遺構は確認することができなかった。



第12図 第174-5次調査区位置図 (1:2,000)



- 1 灰褐色砂質土(盛土)
- 2 灰褐色砂質土に地山土ブロック含む(擾乱)
- 3 褐色砂質土
- 4 にぶい褐色砂質土(木埋)
- 5 橙色粘土(地山)

第13図 第174-5次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)

6 第174-6次調査 (6AK12)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字東裏263-1

原因 浄化槽設置

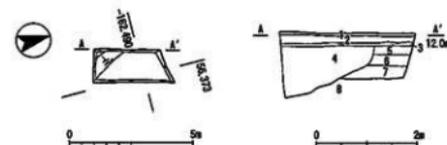
調査期間 平成23年6月30日

調査面積 3.7㎡

調査概要

調査地は史跡南部、斎宮小学校の南約50mに位置する宅地である。合併浄化槽の設置に伴い、発掘調査を実施した。

基本層序は、盛土・灰褐色砂質土・黒褐色砂質土・浅黄褐色粘土(地山)で、現地表面下0.9m(標高12.1m)で地山層上面を確認した。調査区の大部分は攪乱を受けており、遺構・遺物ともに確認できなかった。



第15図 第174-6次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)



第14図 第174-6次調査区位置図(1:2,000)

7 第174-7次調査 (6A112・J12)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字東裏277-2

原因 住宅建替

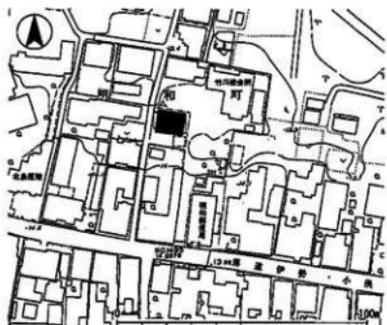
調査期間 平成23年7月5・6日、同年10月6日

調査面積 27.4㎡

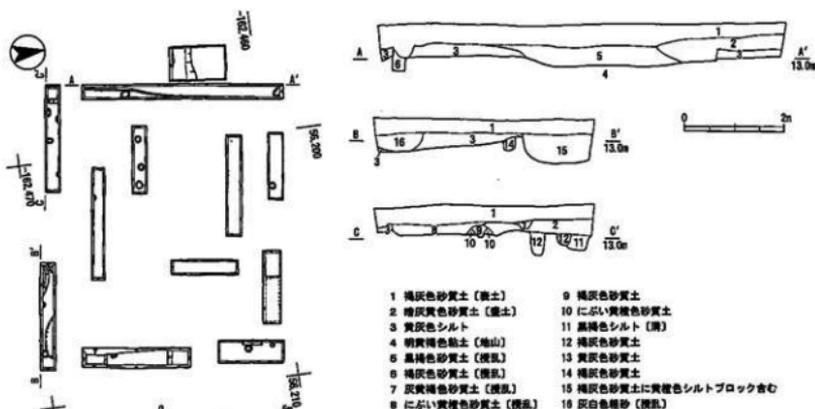
調査概要

調査地は史跡南部、斎宮小学校の西約100mに位置する宅地である。住居改築に伴い、耐震対策のための鋼管杭設置部分および合併浄化槽設置部分について発掘調査を実施した。

基本層序は盛土・黄灰色シルト・明黄褐色粘土(地山)で、遺構は現地表面下0.6~0.7m(標高13.0~13.1m)の地山層上面で検出した。調査区全体から小規模なピットを確認したが、掘立柱建物になるようなものはなかった。また、調査区西端では南北方向の溝を確認した。いずれの遺構からも遺物は出土しておらず、時期は不明である。



第16図 第174-7次調査区位置図(1:2,000)



第17図 第174-7次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

8 第174-9次調査 (6A Q6)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字楽殿2875-1

原因 住宅新築

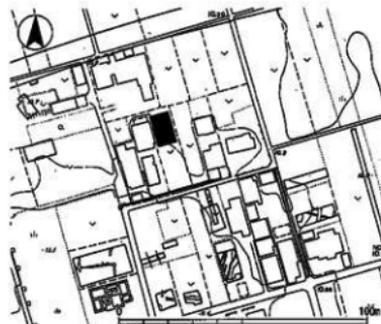
調査期間 平成23年8月8・9日

調査面積 24.6㎡

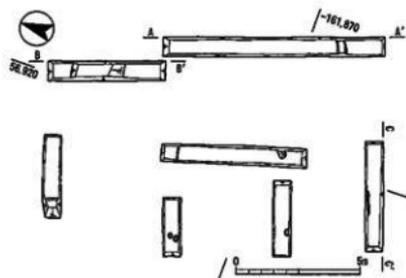
調査概要

調査地は史跡南部、齋王の森の北東約200mに位置する。住居新築に伴い、耐震対策のための鋼管杭設置部分について発掘調査を実施した。

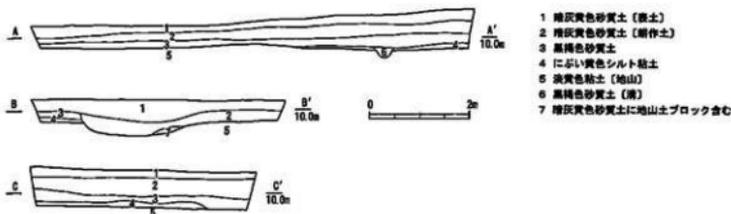
基本層序は盛土・旧耕作土・黒褐色砂質土・にぶい黄色シルト粘土・浅黄色粘土(地山)であり、遺構は現地表面下約0.5~0.6m(標高9.6~9.7m)の地山層上面で検出した。土坑・溝・ピットを確認したが、遺物は出土しなかった。



第18図 第174-9次調査区位置図 (1:2,000)



第19図 第174-9次調査 遺構平面図 (1:200)



第20図 第174-9次調査 遺構断面図 (1:100)

9 第174-10次調査 (6AT13)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字中西602-1、601-4

原因 住宅新築

調査期間 平成23年8月10・11日

調査面積 28.5㎡

調査概要

調査地は史跡南部、竹神社南東約200mに位置する雑種地で、斎宮の方格地割という中西東区画および西側区画道路にあたる。住居新築に伴い、地下遺構の確認するため、発掘調査を実施した。

トレンチNo. 1の基本層序は盛土・黄灰色砂質土・褐灰色砂質土・浅黄色粘土(地山)で、遺構は現地地表下0.5m(標高9.5m)の地山層上面で検出した。トレンチ東端部で土坑を2基確認したが遺物は出土しなかった。トレンチNo. 2の基本層序は、盛土・暗灰黄色砂質土・にぶい黄色シルト粘土・浅黄色粘土(地山)で、遺構は現地地表下0.8m(標高9.3m)の地山層上面で検出した。東西方向の溝SD10451からは土師器皿や羽釜、陶器壺片が出土しており、近世に属するものと考えられる。



第21図 第174-10次調査区位置図 (1:2,000)



第22図 第174-10次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

10 第174-12次調査 (6AG11)

調査場所 多気郡明和町竹川字中垣内430-6、
434-7、435-2、436-4、460-2

原因 住宅新築

調査期間 平成24年2月13日～21日

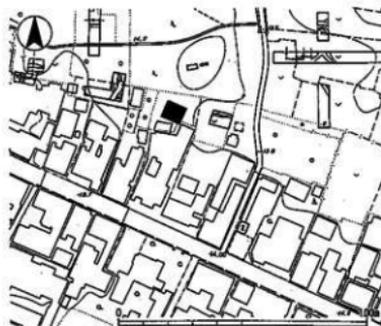
調査面積 30.6㎡

調査概要

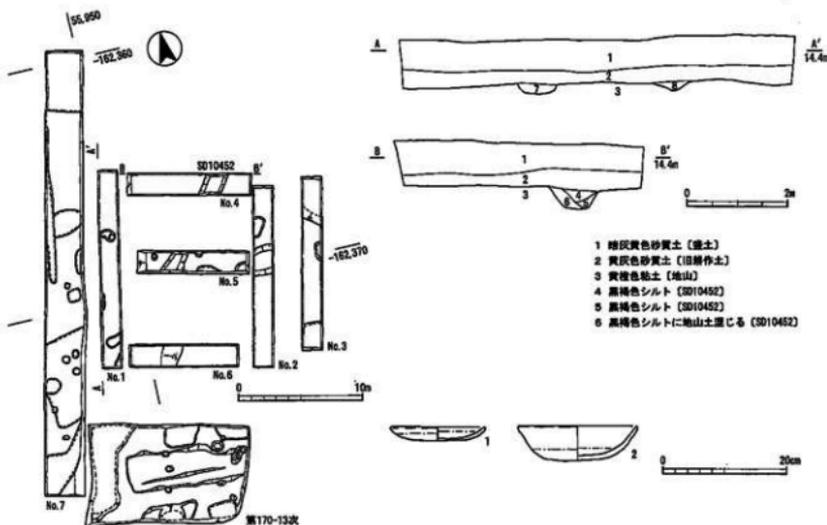
調査地は史跡西部、斎宮小学校の西約400mに位置する宅地である。住居新築に伴い、耐震対策のための鋼管杭設置部分について発掘調査を実施した。また、今回の調査区南側では、平成22年度に第170-13次調査が行われ、鎌倉時代の溝等を確認している。

基本層序は盛土・黄灰色砂質土(旧耕作土)・黄褐色粘土(地山)である。遺構は現地地表下0.8～1.0m(標高13.6～13.8m)の地山層上面において検出し、溝・土坑・ピットなどを確認した。トレンチNo. 4・5では南北方向の溝SD10452を確認した。この溝からは土師器片が僅かに出土したのみで、詳しい時期は不明である。トレンチNo. 7は排水溝設置に伴う立会調査で、方形の土坑状遺構や溝・ピットなどを確認したが、遺構は掘削しておらず、詳しい時期は不明である。なお、排水溝については遺構面を保全した上で設置している。

1は土師器小皿で表土より出土したもの。斎宮編年のⅢ-3期に属する。2は土師器椀で、包含層より出土。外面には指頭圧痕が残り、Ⅱ-1期のものと考えられる。



第23図 第174-12次調査区位置図 (1:2,000)



第24図 第174-12次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)・遺物実測図 (1:4)

11 第174-13次調査 (6AN12)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字内山3037-6

原因 住宅改築

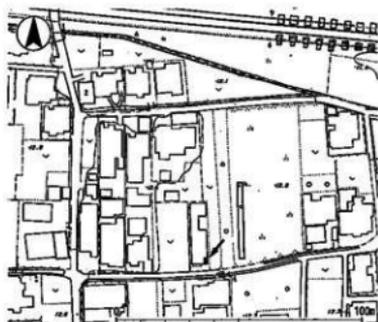
調査期間 平成24年2月24日

調査面積 1.7㎡

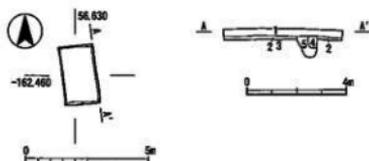
調査概要

調査地は史跡南部、斎宮小学校の東約200mに位置する宅地で、個人住宅新築に伴い、合併浄化槽設置部分について発掘調査を行った。

基本層序は表土・にぶい黄色シルト・明黄褐色粘土(地山)で、現地表面下0.2mで地山層上面を検出した。今回の調査では、遺構・遺物は確認されなかった。



第25図 第174-12次調査区位置図 (1:2,000)



- 1 黒褐色砂質土 (表土)
- 2 にぶい黄色シルト
- 3 明黄褐色粘土 (地山)
- 4 黄褐色シルト (覆土)
- 5 灰黄褐色シルト (覆土)

第26図 第174-13次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

【註】

- (1) 藤澤良祐『山茶碗研究の現状と課題』『研究紀要』第3号、三重県埋蔵文化財センター、1994
- (2) 『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』斎宮歴史博物館、2001

調査次数	遺構名	調査時遺構名	時期	出土遺物	備考
174-2	S D10440	溝 1	近世後期	土師器皿・茶釜・壺、陶器皿・壺・甕、磁器皿・椀	
174-3	S K10441	土坑 6	鎌倉時代前期	土師器皿・壺、陶器山茶碗・山皿	
	S K10442	土坑 1	鎌倉時代?	土師器	
	S K10443	土坑 2	鎌倉時代?	土師甕甕	
	S K10444	土坑 5	鎌倉時代?	土師器高杯・壺	
	S K10445	土坑 3	鎌倉時代?	土師器	
	S K10446	土坑 4	鎌倉時代?	土師甕甕	
174-4	S D10447	溝 2	平安時代後期 (菅原里一3期)	ロクロ土師器台付皿	S D10448・10449よりも新
	S D10448	溝 4	平安時代後期	—	S D10447よりも古
	S D10449	溝 3	平安時代後期	ロクロ土師器小皿	S D10447よりも古
	S D10450	溝 1	平安時代後期 (菅原里一3期)	土師器小皿・ロクロ土師器小皿、陶器甕	
174-10	S D10451	溝 1	近世後期	土師器羽釜、陶器甕	
174-12	S D10452	溝 1	不明	土師器	

第2表 第174次調査 遺構一覧

174-2次調査

番号	器種	器形	地区遺構	法数(cm)	調査・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	土師器	小皿	S D10440	口径 9.4 器高 1.4	外面:ナデ、オサエ 内面:ナデ	密	良	磁S185/8	口縁部 7/12	口縁部内外面に煤 灯明痕	001-1
2	陶器	小皿	S D10440	口径 9.9 器高 1.7	外面:産部糸切痕 内面:内面直ね織り織跡	密	良	灰白+赤褐S185/4	口縁部 2/12		001-02
3	土師器	壺	S D10440	口径 12.8 器高 2.0	外面:ナデ、オサエ 内面:ナデ	密	良	磁7. S185/4	口縁部 3/12	茶釜蓋か	001-03
4	土師器	茶釜	S D10440	口径 11.8 器高 (7.0)	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ヨコナデ、ハケ	密	良	磁7. S185/6	口縁部 4/12	内面産部に煤・炭化 物付着	001-04
5	土師器	茶釜	S D10440	口径 12.7 器高 13.1	外面:ヨコナデ、ハケ、ケズリ 内面:ヨコナデ、ナデ、オサエ	密	良	磁7. S185/6	ほぼ 完形	内面産部に煤・炭化 物付着	001-05
6	磁器	台付 小皿	S D10440	口径 9.2 器高 2.9	外面:ロクロナデ、貼付高台 内面:ロクロナデ	密	良	釉薬:朝オリープ2. S187/2 胎土:灰白+赤褐S187/2	口縁部 8/12	直径3.6cm	001-06

174-3次調査

番号	器種	器形	地区遺構	法数(cm)	調査・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	陶器	皿 (山皿)	S K10441	口径 8.2 器高 1.4	外面:ロクロナデ、産部糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰白2. S177/1	口縁部 2/12		002-02
2	陶器	椀 (山茶椀)	S K10441	口径 7.8 器高 4.8	外面:ロクロナデ、貼付高台、産部糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰白S177/1	口縁部 2/12	直径3.1cm 外底産部に織着	002-01
3	土師器	壺	S K10441	口径 14.4 器高 (3.4)	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ 内面:ヨコナデ	やや 密	良	灰白+赤褐S187/4	口縁部 1/12		002-03
4	土師器	壺	S K10445	口径 17.9 器高 (3.3)	外面:ヨコナデ、ハケ 内面:ヨコナデ	密	良	灰白+赤7. S187/4	口縁部 1/12	内面に粘土結合痕	002-01
5	石鈔	分銅 碁盤	包含層	長さ 6.6 短辺 4.0	外面:ヨコナデ、オサエ後ナデ 内面:ヨコナデ	—	—	暗灰K3/	—	厚2.6cm チャート質	002-05
6	陶器	壺	包含層	口径 12.4 器高 (7.1)	外面:ヨコナデ、オサエ、ナデ 内面:ヨコナデ、オサエ、ナデ	密	良	釉薬:灰白+赤S12 胎土:灰2. S18/2	口縁部 1/12		002-04

174-4次調査

番号	器種	器形	地区遺構	法数(cm)	調査・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	ロクロ土師器	台付 小皿	S D10450	口径 8.1 器高 2.0	外面:ロクロナデ、産部糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄褐10T8/4	口縁部 3/12	直径3.5cm	004-01
2	ロクロ土師器	小皿	S D10450	口径 8.7 器高 2.0	外面:ロクロナデ、産部糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄褐7. S187/4	口縁部 2/12	直径2.0cm	004-02
3	ロクロ土師器	台付 小皿	S D10447	口径 9.2 器高 2.6	外面:ロクロナデ、産部糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	明黄褐10T8/6	口縁部 2/12	直径4.0cm	004-03
4	陶器	皿 覆土土坑	遺構	口径 12.8 器高 3.0	外面:ロクロナデ、貼付高台、産部糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	釉薬:角の千色T87 胎土:灰黄 S18/3	口縁部 6/12	直径6.6cm	004-04
5	金属製品	鉄貨	P111	直径 2.9 厚 0.1	—	—	—	—	完形	直径2.9cm 重量2.50g	004-05

174-12次調査

番号	器種	器形	地区遺構	法数(cm)	調査・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	土師器	小皿	包含層	口径 7.4 器高 1.1	外面:ナデ 内面:ナデ	密	良	磁S187/6	口縁部 4/12		007-02
2	土師器	椀	表土	口径 9.5 器高 2.9	外面:ヨコナデ、オサエ 内面:ヨコナデ	密	良	磁S186/6	口縁部 6/12		007-01

第3表 第174次調査 遺物観察表

付編 史跡現状変更等許可申請

平成23年度に提出された史跡現状変更等許可申請は、43件である。発掘調査を行ったのは、前年度申請分も含め16件で、内訳は、史跡の実態説明のための計画発掘調査（補足調査含む）が3件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが13件（うち前年申請分5件）である。

43件の申請の内31件は、宅地敷地内における個人住宅の建設など小規模であったり、工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないものである。なお、基礎掘削工事にあたっては斎宮歴史博物館調査研究課並びに明和町斎宮跡課職員の立会いのもとで実施している。

23年度の申請の内容は、一覧表（第4表）のとおりであり、これらの申請を（A）個人等から申請されるもの、（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、（C）史跡環境整備および維持管理に伴うもの、（D）発掘調査のための申請に分けることができる。

（A）個人等による申請

個人等による申請は、住宅等建設、解体に伴うもので21件あった。うち住宅増築、浄化槽設置など発掘調査が必要とされた7件のうち、6件（第174-6、7、9、10、12、13次調査）について調査を行い、1件は着工時期の関係で次年度調査とした。

他の14件については、住宅建築や撤去、工作物の設置、樹木の伐採等で土地利用区分の第四種保存地区にあたり、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

この申請は11件の提出があった。その内容は、道路や側溝修繕等が3件、道路標識設置が1件、電気・電話関係が7件あり、工事立会いで着工している。

（C）史跡環境整備および維持管理に伴う申請

この申請は8件あり、史跡東部整備工事関係が2件、博物館や休憩所施設改修関係が2件、史跡公園の樹木の植栽や伐採、案内板の設置などである。

また、明和町歴史的風致維持向上計画事業を推進するための発掘調査（第174-8次調査）1件がある。

（D）発掘調査のための申請

この申請は3件の提出があった。これは、三重県が主体となって斎宮歴史博物館が実施している計画発掘調査（第173次・第175次調査）と補足調査で、当該年度は、前年度申請の第172次調査と第174-11次調査も含めて809.4㎡が調査された。

これらの内容については斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行される。

（中野教夫）

	申請地	種別	申請者	変更内容	申請受付日 送付日	許可日 受付日	変更面積	区分	備考
1	富宮中西2751、2751-1	A	個人	フェンス設置	H23.4.12	H23.5.20	L=39m	4	
2	富宮中西2407-1--2	A	個人	竹伐採	H23.4.13	H23.5.20	478㎡	3	
3	富宮宇東殿2839-1	B	西日本電信電話三重支店	電柱建替え	H 23.4.13	H23.4.20	1本・1条	1	
4	富宮宇下園2328-6	A	個人	住宅撤去	H23.4.20	H23.6.17	23.14㎡	4	
5	富宮宇東加座2435-2	B	西日本電信電話三重支店	電柱支柱線新設	H23.5.2	H23.5.16	1条	2	
6	竹川宇東裏277-2	A	個人	住宅建替	H23.5.18	H23.6.17	92.74㎡	4	第174～7次調査
7	竹川宇東裏263-1	A	個人	浄化槽設置	H23.5.19	H23.6.17	165.38㎡	4	第174～6次調査
8	富宮宇藤原・御殿・西加座・ 下園地内96築	C	三重県	基金造成	H23.5.25	H23.6.17	4.8㎡	1	第174～11次調査
9	富宮宇西加座2666-1他	D	明和町(富宮跡課)	免担調査	H23.5.26	H23.6.17	800㎡	1	第174～5次調査
10	富宮地内(町道・中町・役場・ 馬之上線)	B	西日本電信電話三重支店	支線新設	H23.5.30	H23.6.7	1条	2	
11	富宮宇藤原2779-14	D	三重県	免担(計画)調査	H23.6.21	H23.7.15	39㎡	1	第175次調査
12	富宮宇美殿2875-1	A	個人	住宅新築	H23.6.15	H23.7.15	81.15㎡	3	第174～9次調査
13	富宮宇中西596番地	A	個人	敷地整地	H23.6.15	H23.7.15	509㎡	4	
14	富宮宇中西602-1、601-4	A	個人	住宅新築	H23.6.17	H23.7.15	74.7㎡	3	第174～10次調査
15	富宮宇下園2666-他3築	D	三重県	免担(計画)調査	H23.8.25	H23.9.16	390㎡	1	第173次調査
16	竹川宇中道内460-2他4築	A	個人	住宅新築	H23.8.29	H23.9.16	99㎡	3	第174～12次調査
17	富宮宇中西601-2	B	中部電力柳松飯宮営業所	電柱及び支線新設	H23.9.15	H23.9.21	1本・1条	3	
18	富宮宇御殿2954-1、2954-2	C	三重県	プレハブ設置	H23.9.21	H23.10.21	1棟	1	
19	富宮宇内山3037-6	A	個人	住宅改築	H23.8.30	H23.10.21	85.87㎡	4	第174～13次調査
20	富宮宇御殿2933-1	B	中部電力柳松飯宮営業所	電柱及び支線建替え	H23.10.6	H23.10.18	1本・1条	1	
21	富宮宇牛漢2757-2	A	宗教法人 竹神社	境内整備	H23.10.11	H23.10.18	2.19㎡	4	
22	富宮宇御治山2392-1	A	個人	住宅新築	H23.10.14	H23.11.18	72.75㎡	4	
23	富宮宇木漢山内	B	明和町(建設課)	道路改修	H23.10.18	H23.10.31	L=63.7m L=40m	3	
24	富宮宇富川2359	A	個人	住宅撤去	H23.10.27	H24.2.17	74.37㎡	4	
25	富宮宇古里3270-5	A	個人	排水管改修	H23.10.27	H23.11.4	L=40m	4	
26	富宮宇藤林3134-3、上園 3069	C	明和町(富宮跡課)	案内板設置	H23.11.1	H23.11.24	2ヶ所	1	
27	富宮宇富川2356-2	A	個人	倉庫撤去	H23.11.4	H24.1.20	187.5㎡	4	
28	富宮宇木漢山内	B	明和町(建設課)	側溝新設	H23.11.10	H24.1.20	L=42m	4	
29	富宮宇内山内	B	明和町(建設課)	道路標識設置	H23.12.1	H23.12.21	2ヶ所	1	
30	富宮宇富川2360-3	A	個人	倉庫撤去	H23.12.13	H24.1.20	49.59㎡	4	
31	竹川宇古里559-28	C	富宮町観光協議会	植栽	H23.12.15	H24.1.20	5本	1	
32	富宮宇富川2356-2外3築	A	個人	倉庫新設	H23.12.23	H24.4.20	65.24㎡	4	
33	竹川宇古里511外	C	三重県	水道管埋設	H23.12.21	H24.1.20	L=297m	3	H24.3.16取下げ
34	富宮宇御殿2939-1	C	朝西史跡富宮跡保存協会	休憩所コンクリート舗装	H24.1.4	H24.1.25	3.3㎡	1	
35	富宮宇中西2342-16	B	中部電力柳松飯宮営業所	電柱及び支線建替え	H24.1.11	H24.1.25	1本・1条	4	
36	竹川宇古里669-2	A	明和町(建設課)	倉庫撤去及び敷地造成	H24.1.18	H24.3.16	635㎡	4	
37	竹川宇古里514-5	C	三重県	樹木伐採	H24.1.24	H24.1.25	1本	3	
38	富宮宇藤原2797-1--2	D	三重県	免担調査	H24.1.24	H24.2.17	5.6㎡	1	第152次補足調査
39	富宮宇木漢山内95-9	A	個人	住宅撤去	H24.1.26	H24.3.16	141㎡	4	
40	富宮宇富川2397	A	個人	住宅建替	H24.2.1	H24.3.16	96㎡	4	
41	富宮宇内山3043-17	B	西日本電信電話三重支店	支柱取替	H24.2.1	H24.2.21	1本	3	
42	富宮宇出在家3237-4	A	個人	住宅新築	H24.2.10	H24.3.16	79.46㎡	3	第178～1次調査
43	富宮宇藤原・西加座内	B	明和町(建設課)	側溝埋立	H24.3.16	H24.4.20	L=230m	1	

第4表 平成23年度現状変更等許可申請一覧

写真図版



第174-1次調査区トレンチNo. 1 (北から)



第174-1次調査区トレンチNo. 2 (東から)



第174-1次調査区トレンチNo. 3 (北から)



第174-1次調査区トレンチNo. 4 (北から)



第174-1次調査区トレンチNo. 5 (東から)



第174-1次調査区トレンチNo. 6 (東から)



第174-2次調査区全景（南から）



第174-3次調査区全景（南から）



第174-4次調査区全景（北西から）



第174-4次調査区全景（南から）

写真図版 4



第174-5次調査区全景（東から）



第174-6次調査区全景（北から）



第174-7次調査区全景（北東から）



第174-9次調査区全景（南から）

写真図版6



第174-10次調査区トレンチNo. 1 全景（西から）



第174-10次調査区トレンチNo. 2 全景（北から）



第174-12次調査区全景（南西から）



第174-12次調査区トレンチNo. 7（南から）

報 告 書 抄 録

ふりがな	しせきさいくうあと へいせいにじゅうさんねんどげんじょうへんこうきんきゅうはくつちょうさほうこく							
書名	史跡斎宮跡 平成23年度現状変更緊急発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県多気郡明和町斎宮跡埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	29							
編著者名	新名 強・中野教夫							
編集機関	斎宮歴史博物館(調査研究課)・明和町(斎宮跡・文化観光課)							
所在地	〒515-0332 三重県多気郡明和町大字馬之上945番地 TEL 0596(52) 7126							
発行年月日	西暦 2013年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さいくうあと 斎宮跡	たけ せき けい ちゅう せい ねん だ げん じ ょ う へ ん けい ぎ ん ぎ ゅ う へ っ け つ ち ょ う さ ほう こ く 多気郡明和町 斎宮・竹川	24442	210	34° 31' 55" ~ 34° 32' 30"	136° 36' 16" ~ 136° 37' 37"	20090401 ~ 20100331	全13件 1,070.7㎡	史跡現状変更に伴う緊急発掘調査(史跡斎宮跡第174次調査)
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
斎宮跡第164次	官衙	平安・鎌倉 室町・近世		溝・土坑・ピット・落込み		石器・土師器 灰釉陶器 山茶椀 近世陶磁器 銭貨		
要約	<p>第174次調査は、史跡内における現状変更に伴う緊急発掘調査である。</p> <p>174-1次調査は鉄道路線内の鉄塔建替えに伴う調査を、第174-2・3・5・6・7・9・10・12・13次調査は個人住宅の新改築もしくは合併浄化槽設置に伴う調査を、第174-4次調査は竹神社の境内整備に伴い調査を行った。いずれも小規模な調査であったため、多くの遺構は確認することはできなかったが、第174-4次調査で「内院」推定地内の区画溝を確認するなど、貴重なデータを得ることができたと考えられる。</p>							

史跡 齋宮跡

平成23年度

現状変更緊急発掘調査報告

平成25(2013)年3月19日

編 集 齋宮歴史博物館
明 和 町
発 行 明 和 町
印 刷 光出版印刷株式会社